私たちは地域の「よろず相談所」でありたいと願っています。

ごあいさつ

平素は、但陽信用金庫に深いご理解と格別のお心寄せを賜り、厚くお礼申し上げます。

本年も、当金庫の企業理念・経営理念、令和6年度における業績や業務の内容・地域貢献活動などについて、より深くご理解いただきたく「たんようの現況」－2025年版－を作成いたしました。ご高覧賜りますようご案内申し上げます。

令和6年度は、アフターコロナによるインバウンド需要の回復から観光関連産業が大きく伸張し、さらに、遠隔会議システム活用などのDX進展が、リモートによるアウトソーシング取引などの新たな生産性向上策の拡がりを後押しするなど、企業の設備投資が旺盛になりました。また、企業の人的資本経営への取組みと賃上げ努力により、賃金と物価の好循環実現が視野に入ったことから、日本銀行は政策金利の引き上げを行い、長く続いた金融緩和政策の正常化に舵を切りました。

しかしながら、年度後半に入り、3年目に入ったロシア・ウクライナ紛争や中東の地政学リスクに加えて米トランプ政権の関税政策による世界経済の悪化懸念から、今後の国内景気は極めて不透明な状況となっています。

当金庫は、このような激変する社会情勢の中、地域に根差した金融機関として「長く培ってきた独自性」や「“よろず相談所”の実践」を通じてさらに深化した金融仲介機能の発揮に努めるとともに、当金庫のパーパス「役職員とお客様の満足、『何をすれば喜んでいただけるか』を追求し、地域の持続的発展に寄与する」を真摯に実践することで、地域になくてはならない金融機関となるよう取り組んでまいりました。

その結果、昨年6月に預金量1兆円を達成し、また、今期は預金貸出金ともに大幅な業容拡大が図れ、前年度を上回る14億93百万円の当期純利益を確保することができました。これはひとえに、皆様方の温かいご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。

当金庫は、来年に迫った創業100周年に向け、より一層「パーパス」および「よろず相談所」の実践に取り組み、お取引先の一先一先に金融業務はもちろん、どのようなことでもお役に立たせていただくべく、さらに積極的に取り組んでまいります。

何卒、今後とも変わらぬご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年7月

但陽信用金庫
理事長　桑田　純一郎